

## R-2-2 コロナ禍におけるがん診断の実態-がん登録情報から読み取れること-

佐々木和美<sup>1</sup>、中田慶子<sup>1</sup>、高崎光浩<sup>1</sup>、中尾佳史<sup>1</sup>、荒金尚子<sup>1</sup>、落合康宣<sup>2</sup>  
佐賀大学<sup>1</sup>、佐賀県庁<sup>2</sup>

### はじめに

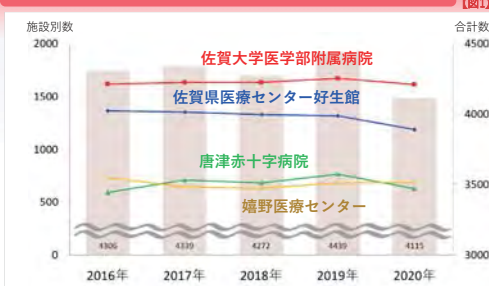
【目的】コロナ禍のがん診療への影響をがん登録情報から明らかにする。

【方法】2016年～2020年の佐賀県内がん診療連携拠点病院<sup>1</sup>の院内がん登録<sup>2</sup>情報から、COVID-19感染症蔓延状態の2020年データを「コロナ下」とし、2019年までの4年間の平均データ（以下「コロナ以前」）と比較した。

\*1 佐賀県内がん診療連携拠点病院：佐賀大学医学部附属病院、佐賀県医療センター好生館、嬉野医療センター、唐津赤十字病院

\*2 「院内がん登録」は、該当施設で診断・治療を受けたすべての患者さんのがんについての情報を登録する仕組みです。

### 【結果】1. 登録数の年次推移（初回診療および治療開始登録数）



□ コロナ下は前年比7.3%減、コロナ以前と比較すると5.2%減であった。

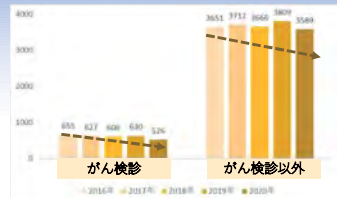
### 【結果】2. 月別登録者数割合とコロナ感染の推移



- コロナ下の月別登録数を、コロナ以前と比較すると平均0.4%減であった。
- 通年をとおして100%を切っており、登録数の減少が見られる。
- 特に5月は20.2%減と顕著で、緊急事態宣言が発出された時期と重なっている。
- それ以外では2月、8月、11月で減少が確認され、がん検診延期等と関連していた。
- しかし、12月はコロナ以前を8.8%増加した。

### 【結果】3. 発見経緯別登録数の推移

#### ●年次推移（がん検診・がん検診以外）



- 「がん検診」、「がん検診以外」いずれもコロナ以前に比べて明らかに減少した。
- 最も顕著な結果は5月で、「がん検診」が62%減、「がん検診以外」も15%減であった。
- 「がん検診以外」の増減はなだらかであるが、「がん検診」は変動が大きく見られた。

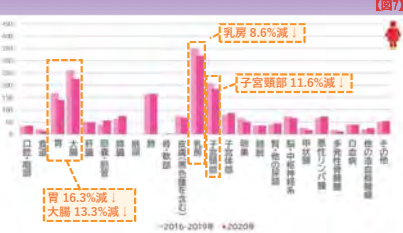
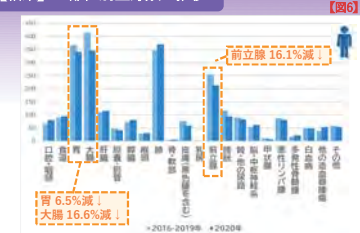
#### ●がん検診で発見された月別登録者割合



#### ●がん検診以外で発見された月別登録者割合



### 【結果】4. 部位別登録数の推移



- 男女問わず胃・大腸が減少、肝臓はほぼ横ばい、肺は5%増加であった。
- 男性では前立腺で16.1%減を認めた。
- 女性では検診による発見が期待される乳房（8.6%）、子宮頸部（11.6%）の顕著な減少を認めた。

### 【結論】

- 例年の変動に比べると、2020年の登録数は明らかに減少した。
- コロナ禍でのがん登録者数の減少は、本院以外3拠点病院は全て感染症指定医療機関である事に起因する可能性がある。
- いくつかのがん腫で登録数減少が顕著だったが、特にがん検診での発見の多いがん腫で影響が顕著だった。
- コロナ禍で、がん検診の延期、受診機会の手控えが発生し、明らかにがん診断の遅れが生じた。
- 新型コロナウイルスとの戦いは長期化が予測され、今後も継続的な評価を行う必要がある。

（利益相反：なし）